



金透坂



令和6年 6月24日(月) 学校だよりNo.13

発行責任者 校長 嶋 忠夫

創立151周年 金透記念式を行いました!

6月17日(月)に、創立151周年金透記念式を行いました。本校の名称に「金透」の二文字が入ったのは、1913年(大正2年)6月17日のことで、「郡山金透尋常高等小学校」という名前になりました。この日を「金透記念日」とし、大正9年からは、6月16日となっています。この記念日の前後に「金透記念式」を行っています。

「金透」の二文字は、今から148年前の1876年(明治9年)6月16日と17日に当時の天皇であった明治天皇が、本校においでになりました。その時の校長先生だった御代田先生が、明治天皇と一緒においでになった、木戸孝允公に学校の名前を付けてほしいとお願いして、「金透學堂」という掛け軸を書いていただきました。

では、「金透」とはどういう意味でしょうか。木戸孝允公は、朱子語類という中国の昔の教えの中にある「陽気発処金石亦透 精神一到何事不可」という教えから「金透」という名前を付けたと言われています。これは「石に向かって矢を射っても石に矢はつきささらない、だが、精神を統一し、全力をふりしぼって石と戦えば、かならずや、矢は石といえどもつらぬきとおす」という意味だそうです。これは、私たちの目標である金透精神「立志 努力 必成」のもとになる考えです。

(参照:「創立150周年記念誌『金透坂』」)

創立151周年の金透記念式では、金透同窓会長であります、高橋金一様をゲストにお迎えし、金透小学校の思い出や弁護士の仕事、夢に向かってあきらめずにがんばること、自分を支えてくれる多くの方々への感謝の気持ちなど、大変わかりやすくお話しくさしました。また、ご講話の後に児童を代表して校旗隊の〇〇〇〇さんと〇〇〇〇さんが御礼の言葉を堂々と述べ、花束を贈りました。代表にふさわしい、すばらしい御礼の言葉でした。



また、熱中症対策のため、体育館での実施をせず、金透記念館で6年生と保護者の皆様が参加し、他の学年は教室でZoomを使ってリモートでの参加となりました。どの学年の子どもたちも、真剣に高橋様のお話をお聞きし、有意義な金透記念式となりました。

ご多用の中、講師をお引き受けいただき、子どもたちに貴重なご講話をしてくださいました高橋金一様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



～ 児童の感想から ～

高橋金一さん、今日はたくさんのお話をしていただき、ありがとうございました。昔の金透小学校の様子や「金透」の由来を改めて知ることができました。自分の将来の夢や人生を考え直すいい機会になりました。そして、不可能だと思うこともがんばれば可能にすることができるということを聞いて、ばくも無理だと思うんじゃなくてがんばろうという気持ちになれる自分になりたいです。これからも友達に寄り添って勇気につなげたいし、自分もがんばりたいと思います。

本当にありがとうございました。



6年 ○○ ○○

ちょっといい話・・・

5月27日から、本校の卒業生である○○○○さんが4週間の教育実習にきています。小学校の先生をめざして、4年1組に入って学校の教育活動を肌で感じ、実際に授業を参観したり、授業をしたりして学んでいます。子どもたちと、一緒に遊び、生活をともにして、たくさんのことを学ぶことができたと思います。20日には、研究授業として、算数科の授業にチャレンジしました。21日で、4週間の教育実習は終了し、大学に戻ります。寂しい気持ちでいっぱいですが、ぜひ、本当の先生になって、本校に戻ってきてほしいと思います。がんばれ！○○先生！



新しい本校のスタッフです！

6月17日から、1年生の少人数指導のための非常勤講師として「佐藤真理（さとう まり）先生」が着任しました。すでに勤務している宗形洋子先生同様に、1年生の生活、学習面で担任の若菜先生とともに1年生の指導にあたります。3人で力を合わせて、1年生31名を育ててまいります。どうぞよろしくお願いします。

